



大すきいっぱい西北の子

～学びづくり、くらしづくり、仲間づくり～

令和6年7月11日
長崎市立西北小学校
文責：校長 江原芳樹
R6 第4号

日本人は風の便りで季節を知り、風という言葉に様々な思いをたくしてきました。「風牙える」冬から、「風光る」春へ、「風薫る」青葉の頃から「風涼し」の夏へ、風が季節の演出者だと考えていたのでしょう。

南風ひとつとっても、春先に吹くのが春一番、そして花散らし。五月の南風は薫風、青嵐と呼ばれます。梅雨時は黒南風、荒南風と続き、梅雨明けの頃は白南風が吹きます。風の姿から、風に青・黒・荒・白と名付けた感覚は見事です。

酷暑、猛暑と外出するにも気を遣うようになりましたが、夏の風を感じる時を忘れないようにしたいものです。

夏休みは自分づくりの最大の機会

来週末から、夏休みです。夏休みは、学校生活とは異なり、自分で自分の生活を整えていかなければなりません。決まった時間に、決められたことが準備されているわけではないからです。そこで、夏休みは「自分づくり」の最大の機会だと捉え、次のことに取り組んでほしいと考えています。

① 家庭の一員として、自分の役割をもってほしい。

「お手伝い」ではなく、「私の仕事」をもたせてください。すでにもたせているご家庭は、夏休み期間は少しレベルの高い仕事を任せてみてください。大切なことは、「任せる」こと。「任せる」ことで、仕事が学びに変化します。

② 学校で学習したことを生活の中で生かしてほしい。

学校での学びと学校外での学びに相関性が高い児童は、学力が高いことが知られています。紙面上だけの学びでは、本物の力は身に付かないことが分かります。学習したことが、体験や経験を通すことで、本物の力になっていくのです。

③ 日頃できないことに挑戦してほしい。

「長編の本を読破する」「いつも疑問だったことを解決する」「2週間かけて〇〇に取り組む」など、時間をかけて取り組むことができるのが夏休みです。結果や成果を求めるのではなく、挑戦することに大きな価値があります。

学校から出される夏休みの課題をしっかりと終わらせることも大切ですが、「夏休みならでは」「夏休みだからできること」を自ら計画し、やってみることに大きな価値があります。「今年の夏だからできた!」、そんな自信をぜひ身に付けてほしいと思います。

Qubena 活用推進期間の取組

6月17～28日を第1回活用推進期間、7月1～12日を第2回活用推進期間として、Qubenaの取組推進を呼びかけました。第1回目では、2週間の期間で1,000問を越す取組をした児童が87名になるなど、積極的に取り組んでいました。

現在、第2回目の取組中ですが、第1回目よりもさらに積極的に取り組んでいる子どもたちが増えています。

Qubena は、夏休み期間中も自分の計画で進めることができる学習ツールです。今回の活用推進の取組が、主体的に学習に取り組む楽しさへとつながることを期待しています。

《校長散歩道 No. 1 5》

40年以上にわたって家庭教育についての授業や講演を行ない、子育てコンサルタントとして活躍したドロシー・ロー・ノルトの著書に『子どもが育つ魔法の言葉』（PHP研究所）があります。この本は世界23カ国で出版されそれぞれの国の親たちを励ましました。冒頭には「子は親の鏡」という詩が紹介され、19の項目にわたってさまざまな事例を取り上げながら、親自身が子どもの手本になることが大切であり、親の価値観は行動によって子どもに伝わることを語りかけています。以下、その19項目です。

- ① けなされて育つと 子どもは、人をけなすようになる
- ② とげとげした家庭で育つと 子どもは、乱暴になる
- ③ 不安な気持ちで育てると 子どもも不安になる
- ④ 「かわいそうな子だ」と言って育てると 子どもは、みじめな気持ちになる
- ⑤ 子どもを馬鹿にすると 引っ込みじあんな子になる
- ⑥ 親が他人を羨んでばかりいると 子どもも人を羨むようになる
- ⑦ 叱りつけてばかりいると 子どもは「自分は悪い子なんだ」と思ってしまう
- ⑧ 励ましてあげれば 子どもは、自信を持つようになる
- ⑨ 広い心で接すればキレる子にはならない
- ⑩ 誉めてあげれば 子どもは、明るい子に育つ
- ⑪ 愛してあげれば 子どもは、人を愛することを学ぶ
- ⑫ 認めてあげれば 子どもは、自分が好きになる
- ⑬ 見つめてあげれば 子どもは、頑張り屋になる
- ⑭ 分かち合うことを教えれば 子どもは、思いやりを学ぶ
- ⑮ 親が正直であれば 子どもは、正直であることの大切さを知る
- ⑯ 子どもに公平であれば 子どもは、正義感のある子に育つ
- ⑰ やさしく、思いやりを持って育てれば 子どもは、やさしい子に育つ
- ⑱ 守ってあげれば 子どもは、強い子に育つ
- ⑲ 和気あいあいとした家庭で育てば

子どもは、この世の中はいいところだと思えるようになる

ここでは、「親」となっていますが、子どもに関わるすべての大人に通じる内容だと思えます。忙しい日々ですが、自分のことを振り返る視点としておきたい19項目だと思います。そして、1つでも多くの「私は大丈夫かも」を増やしていきたいものです。